

♪ シニア便り ♪

第18回定期演奏会を終えて

	副団長・常任指揮者	中村 暁生
	実行委員会一同	
『実行委員、司会、演奏』	司会担当	村山 幸恵

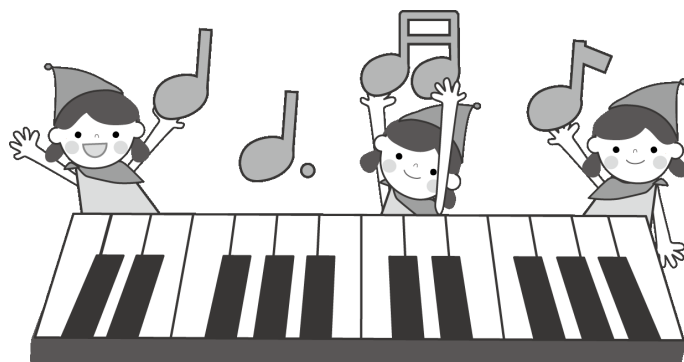
一筆吹奏

『ちょっとだけ回想』	トロンボーン	石川 誠
『ダブルヘッダー』	トロンボーン	小杉 敏浩

チューニング広場

・管弦楽法 つまみ食い その2

吹奏楽の楽器の使い方 ~基礎の基礎~	副指揮者	石井 邦紀
--------------------	------	-------



第19号 (2011年11月発行)

発行	北海道シニア吹奏楽団・事務局
編集	シニア便り・編集部

「第十八回定期演奏会を終えて」

副団長・常任指揮者

中村 暁生

一、はじめに

定期演奏会実行委員、各係、担当者を始め団員皆様のご努力とご協力により、無事に第十八回定期演奏会を終えることが出来ましたことに對し先ずもって厚くお礼申し上げます。

二、演奏について

演奏内容についての評価は本来お客様がするもので私からは敢えて申し上げません。

後ほど録画や録音を見聞きすることと思いますが、それぞれの立場で評価をし反省点を見出して将来の糧としていただきたいと思います。演奏は「一期一会」と言われ、残念ながら録画、録音には当日の熱気や雰囲気は記録されていません。それを踏まえて私の感想を述べますと、随所にあつたソロがほぼ完璧に演奏されたことに加え、皆様の演奏に対する集中力と意欲を指揮をしながら強烈に感じ、それは間違いなくお客様に伝わっていると確信しています。

三、アンサンブルについて

クラリネットとサクソフォングループによる本格的なアンサンブルの

登場は当団の歴史上大きなエポックになったと感じました。

アンサンブルはその集大成としての合奏の基礎であり、メンバー各人の役割をお互いに理解してタテ、ヨコ、ナナメを合わせながらグルーブとしての音楽を表現していく点で大きな効果があり、指揮者 各プレーヤーではなく、指揮者 アンサンブルを通してのプレーヤーとなれば団としての演奏表現力の向上に繋がります。同属楽器だけでなく他種楽器とのアンサンブルを積極的に進めて欲しいと思います。

四、今後の課題

実行委員会が各パート持ち回りの制度になり、全員が企画や運営に参加するようになったことは大変意義深く、回を重ねることに意欲的な企画や選曲がなされ、また運営のノウ・ハウの蓄積はソフト面での大きな財産になりつつあります。

然し、プロ・アマを問わず必ず直面する課題、演奏する側の欲求（音楽的、技術的に更に高度なものを求める）と聴く側の欲求（聴きなれた皆がよく知っている曲）とのバランスを如何にとりて行くか、団の存在意義を常に念頭に置きながら進めていかなければと、自戒の念を込めて思っています。

五、おわりに

いよいよ再来年は団創立二十周年、歴史の一つの節目となるよう、創立の原点を踏まえながら演奏団体として更に飛躍できるよう皆様と力を合わせて *cresc. poco a poco* でありたいと念願すると同時に、今回の演奏会で頂いた皆様のご協力と熱意に對し重ねて深く感謝申し上げます。

「第十八回定期演奏会を終えて」

第十八回定期演奏会は、平成二十三年十月二日「かでる2・7 北海道鍼灸専門学校 かでるホール」を埋めた三〇〇余名の皆さんによる「上を向いて歩こう」の大合唱と大きな拍手のうちに終演となった。

演奏会を成功裏に終えることが出来たのも、顧問の方々、事務局の方々そして団員の皆さんのご協力の賜物であり、実行委員会一同、心から深く感謝申し上げます。

今回の演奏会の開催にあたり、実行委員会としての留意事項は次の通りであった。

練習期間が例年より一カ月短い
いかにして自前演奏ができるか
① 震災を考慮して華美にならないように

等を念頭において、綿密に計画を練

った。

については、過去に演奏した曲から選曲することで、練習時間の効率化を目指した。具体的にはご承知のように、「エグモント序曲」「ペルシヤの市場にて」「ブルー・タンゴ」「カヴァレリア・ルスティカーナ」等を選曲した。

については、パーカッション以外は全体として自前演奏が出来ると予測した。司会者を内部起用とし、村山さんに依頼した。しかし後半になり、ユーフォニアムの二名が諸般の事情により出演不能となったため、急遽応援を要請することとなった。

については、飾り物などを自粛することで検討した。また、全日本吹奏楽連盟からの要請により「上を向いて歩こう」をアンコール曲とした。

実行委員会は、平成二十二年七月二十二日に第一回を開催し、実行委員長に松本先生、副委員長に高橋さんを選出し、フルート・オーボエパートに加えて、第十九回定期演奏会実行委員を予定の伊藤さんの参加を得た。以後十八回に渡って、先の三つの課題を中心に検討を重ねてきた。

この間、顧問には、指揮者の中村先生、小学校の指導・連絡調整に石井先生、舞台演出に梶先生、印刷物デザインに菊田さん、表紙絵担当の内田さん（クラリネット）の皆さん

にご協力をいただき、貴重なご意見や方針の示唆を頂いた。

お陰様で演奏会は、多くの成果を得ることが出来た。

感謝、感謝である。

又、練習会場については、事務局長の柿岡さんのご配慮により、NTTセミナーセンターの他に「リフレ・サッポロ」、「かでる2・フレクレーション研修室」を確保でき、円滑な練習を行うことができた。

尚、幾つかの不具合があり不快な思いをした方には、申し訳なく実行委員会の注意が足りなかったと反省している。今後の課題として、来年度実行委員会に申し送りすることとしたい。

改めて、団員の皆様のご協力に深く感謝申し上げ、第十八回定期演奏会・実行委員会としての経過報告と御礼といたします。ありがとうございました。

実行委員会一同



「実行委員、司会、演奏」

村山 幸恵

シニア吹奏楽団にお世話になって、早八年。初めての実行委員でした。

実行委員を担当するに当たり、私自身も司会をしなきゃいけないだろうと覚悟していたこともあり、司会をするには直ぐに決まりました。

しかし、その覚悟の割には、宿題はぎりぎりまでやれない性格のため、中村先生には大変ご迷惑をお掛けしました。すみませんでした。

前回、司会をやらせていただいたのは第十五回定期演奏会。あの時は何が何やら、よくわからないまま終わってしまった感じでした。

今回は実行委員として、選曲から舞台構成、タイムスケジュール等、さまざまな方面から司会を考えていきました。

演奏でソロを吹くよりも、司会の方が緊張でした。私の司会で、演奏会の「良し・悪し」が決まってくる気がしていました。前回司会の加藤さんの動きを参考にしました。

私一人では全く何もできず、色んな方に相談させて頂きました。

シニア吹奏楽団の素敵で凄いとこころは、相談すると皆さん必ず助けてくれることです。今回、司会を無事終わらせることができたのも、皆さん

のおかげです。

司会のことで頭がいっぱいで、演奏面はかなり疎かになってしまった気がします。本番当日、時間に余裕はあったのですが、気持ちに余裕がありませんでした。演奏会後の打ち上げでも司会を任されていたので、最後まで気が抜けませんでした。家に帰ってから、すごく疲れているはずなのですがなかなか寝付けず、興奮状態でした。

司会というものはなかなか経験できないことで、貴重な経験をさせて貰いました。今回は、良かったのか悪かったのか、無我夢中だったため自分では良く分かりません。ただ、転倒したり楽器を倒したりという事故もなく終えることができホッとしています。

今回、実行委員をやってその大変さがよくわかりました。思うようには行かず、途中で腐ってしまいそうなきもありません。パート毎に実行委員を廻して行くのは良いことだと思えました。毎年同じような演奏会では、お客様もそうですが、演奏している側としてもマンネリ化してしまいます。パート毎にそれぞれ特色を出せることもそうですし、実行委員の大きさを団員で共有することもよいのではないかと思います。司会の大きさが身に染みしましたの

で、これからは演奏だけをのんびりやりたいと思います。

一筆吹奏

「ちよつとだけ回想」

トロンボーン 石川 誠

高校を卒業してからの三十三年間、楽器を手にしてステージ上で演奏する時の感覚はすっかり忘れていました。それが今回の定期演奏会で当時の記憶が鮮明に甦り、緊張と興奮と感動を味わうことが出来ました。

私が北海道シニア吹奏楽団に初めてコンタクトしたのは一年ほど前でした。入団希望のメールを事務局へ出しましたが、返信ではトロンボーンに欠員無く、募集は見合わせているとの内容でした。仕方なく他の楽団を調べていましたが、何かピンと来るところが無く途方に迷っていました。そんな時、柿岡さんから見学のお誘いを頂き即答で見学をさせて頂くことに決めました。しかし、いざ見学に向うとなると楽譜も満足に読めない、音はよく鳴らない、こんな状態でやっていけるのだろうか不安な気持ちになったのです。そんな思いで臨んだところ、なん

とそこには高校時代に隣でトロンボーンと一緒に吹いていた小杉がいたのです。奇跡的な偶然に、お互いびっくりしたと同時に私の不安は吹っ飛びホツとしたのでした。今は二人並んで演奏していることが高校時代の延長のような感覚で、三十三年間の空白は一切感じない不思議な思いです。

それからは第十八回定期演奏会へ向けての月二回の練習と親睦会が、私の最大の楽しみとなりました。演奏会の結果は散々たるものでしたが、団の一員として一緒に演奏することの喜びと充実感を味わえるこの場所をこれからも大切にしたいと思えます。自分の課題として来年の十九回定期演奏会は十八回より良い演奏が、二十回目は十九回より良い演奏が出来るように日々練習に励む、それと親睦会の出席は皆勤賞を目標にすることです。

高校卒業と同時にトロンボーンを演奏することはもう二度とないだろうと思っていた私が、三十三年も経ったのに、またこのような気持ちにさせてくれたのは音楽の力だと思いたいのですが、若輩の私が言うのも可笑しな話ですが、ただ年を取っただけなのでしょうが？

『ダブルヘッダー』

トロンボーン 小杉 敏浩

定期演奏会が終わり、非常に充実した夏でしたが、忙しい夏でもありました。

札幌で吹奏楽を再開して一年。シニアのほかに、ウインドアンサンブルラミューズにも入っており、この夏は両バンドの土・日の練習のほかに、昼はラミューズの本番、夜はシニアの練習といったダブルヘッダーが何回もありました。

約三十年前、相模原市民吹奏楽団に入団し、五年間、真剣に吹奏楽に取り組んでいました。五、十二月に団主催の定期演奏会、十月に市主催の演奏会、八月からのコンクール、年間を通じた学校訪問などで、一年間に十数回の本番がありました。中でも八四年の定期演奏会を、フレデリック・フェネルの指揮で吹いたことが一番の思い出です。

練習は週一回、土曜の夜か日曜の午後でしたが、本番が近づいてくると土日連続になり、休日の三分の二近くは楽器を吹いていたと思います。これに平行して、職場のビッグバンドのサークルにも入っていました。一〇月に開催される職場の永年表彰式の祝賀会での演奏と、十二月に職員組合の各支部が開催するダンスパ

ーティの演奏が五回ほどあり、ジャズ、ラテンから歌謡曲まで、いろいろな曲の演奏を楽しみました。

練習は、毎週土曜の午後でしたので、夏から秋は、ダブルヘッダーの練習でした。

八七年に北海道に異動となり、楽器から遠ざかってしまいましたが、三年前、根室勤務時に二十数年ぶりに吹奏楽を始め、昨年、札幌への異動を機に本格的に再開しました。

シニアでは、上手でパワフルな諸先輩方に囲まれ、さらに旭川北高時代に並んで吹いていた同級生の石川と奇跡的に一緒に入団したこともあり、楽しく吹いています。

しかし、昔できたことが今できません。根室時代は、長いブランクと五十近い歳のせいだと思っただけですが、シニアに入団して、少なくとも歳のせいではないことだけはわかりました。まずは少しでも昔に戻れるよう、前向きに取り組んでいきたいと考えています。



チューニング広場

管弦楽法つまみ食い その2

吹奏楽の楽器の使い方

基礎の基礎

副指揮者 石井 邦紀

パリ・ギャルド・レピビュリケール又吹奏楽団の管弦楽曲編曲において弦楽器以外のパートの扱いは、原曲の編成をそのままオーケストラの管打楽器パートをアンサンブルパート以外に使用していません。例外的にはオフレイドやセルパン（説明が難しいのでネット検索してみてください）等、今では用いられなくなった楽器を現代の楽器に置き換えていることや、鍵盤打楽器を加えていることです。また、フランスですからユーフォニウムを使わずフレンチ・チューバについてはオーケストラのチューバパートはF管（絶対ではない）のチューバを一本、コントラバスパートに複数のB（C管の場合も）チューバを当てています。Bチューバはバスではなくコントラバスなのです。ここで注目して欲しいのは、同じ楽器でも、セクションとしてのサウンドと一本で吹いたサウンドは違つと

いうことです。物理的に同じ音量で鳴らしても音色に違いが出るのです。簡単に言うと同じ旋律を複数で演奏すると柔らかく、一本で演奏すると鮮やかな音になるのです。このことを理解した編曲により、オーケストラを彷彿させるギヤルドのサウンドを作り上げているのです。また、同じ楽器で同じメロディーが重なってしまつときは、ソロの奏者はほんの僅か早いタイミングで発音することで聴衆に自分の音を聞かせることもします。

人間の耳は約380分の1秒の違いを聞き取れます。(個人差はありますが)、そして、先に聞こえた音を認識します。

これらのことにより、ヴァイオリン協奏曲の強奏部分でも独奏ヴァイオリンの音が聴こえるのです。

オーケストラの様なサウンドを作り上げているもう一つの要素は、多彩なアーティキュレーションを使い分けていることです。楽器らしさを感じさせる要素として、アタックとリリースをどの様に奏するかがあります。そのために、豊富なアーティキュレーションの表現が求められることとなります。アーティキュレーションと聞いて、小・中学校の音楽の教科書レベルを短絡的に思い浮かべていてはとても貧しいものになってしまう。アナログ的に無限の表

現の中から、適時選ばなければならぬのです。そのために、まず弦楽器の演奏についての基本的な事項を思い出してみましょう。

1. 様々な弦楽器の奏法と指示

arco 弓で弾く

pizzicato 右手の指で弾いて弾く

harmonics (や) 倍音奏法

col legno 弓の木の部分で叩く

重音奏法 ダブル(トリプル、クアドルプル)ストップ

glissando 弦の上で指を滑らせて2音間を切れ目無く滑らかに繋ぐ(速度指定有り)

portamento 2弦の上で指を滑らせて音間を切れ目無く滑らかに繋ぐ(速度指定無し)

sordino 弱音器(付ける時は con sord. 外すときは senza sord.) (音を小さくする目的もあるが、音色を変える目的で使うことも多い)

sul ponticello(sul pont.) 弓を駒と近くして弾く(硬い音色になる)

bartok pizzicato 指で弦を摘まんで、指板に叩きつけるピチカート(果樹園みたいなマーク)

sul tasto (sul tas.)弓を指板と近くして弾く(丸い音色になる)

modo ordinario(ord.) ponticello や tasto から弓を元の位置に戻す

trémolo 指のトレモロと弓のトレモロがある、定量トレモロと不定量トレモロもある

apunta d'arco 弓の先を使う(繊細な、柔らかな、軽い表現等)

al tallone 弓の根元を使う(力強い、ハッキリした、重い表現など)

détaché デタシエ、弓を大きく(全体を)使ってノンレガート(弓の切り返しがハッキリと聞き取れるような奏法)

staccato 弦の指定(6線で奏する)弦毎に音色特性がある。6線(一番低い弦)は太く強い(巻弦特有の音色) 5線(一番高い弦)は輝かしく強く明瞭 D線A線 柔らかい、G、Eに比べて弱い

divisi 弦パートの分割 分けられた各パートの事をパートと呼ぶ

2音以上を同時に書いて、div.させたくない場合は non div. または「で音符を括る。または、その両方を書く。弦パートを分割すると、特に強い音への表現力が減る。

人数指定をする場合 半分 half a () は人数、divisi と合わせて、各パートの人数割り指定する場合もある) 元に戻す場合は tutti と記す。

音符の上にと書く開放弦指定

2. 弓による技法(Bowling = 運弓法)

・上げ弓と下げ弓の基本的な特性
上げ弓(↑)は、アタックが、やや弱くなりやすく、下げ弓(↓)はやや強くなりやすい傾向をもちます。但し、一般的なフレーズ(特に指示をしない場合)を奏する場合には、運弓の指示に無理がある場合を除き、どちらとも違いなく演奏してくれます。
スラーがボウイングで一弓で弾く指示になっており、フレーズは legato、non legato で指示するか2重にスラーが掛けられます(内側がボウイングの指示)。スラー付きスタカートは、一弓で音を短く切りながら演奏します(軽く、跳ねるような表現)。

3. 指の技法

・高音域での半音階は、指板上の半音階がとて狭くなり、正確に演奏するのが難しくなります。

4. 弓のトレモロと指のトレモロ

・弓のトレモロは弓を細かく動かし、同音を連打します(基本的には弓の先を使う)。そして、弓を駒の近くにして弾くときと、弓を指板の近くにして弾くときの音色の差が(通常のレガートの演奏に比べ)強調されます。低音域では暗く、高音域は明るさを超えて刺激的な音色になります。また、弓が大きく使えないの

で、あまり強い音では早く出来ず、強い音ではトレモロが遅くなります。

- ・ 指のトレモロは、2つの異なる音を指で細かく交互に演奏され（shakeとも言う）、増4度ぐらゐまでの音程間隔が用いられる場合があり、音程間隔によっては、管楽器で置き換えるには工夫が必要です。

5. ハーモニクス奏法

弦に軽く触れて倍音を演奏する技法で、緊張感や透明感を感じさせる繊細な音色がします。それぞれ左記の音程となり、高次倍音になればなるほど音が小さくなってしまいます。

- ・ 弦長の半分の位置を触る… 1オクターヴ上

- ・ 弦長の $\frac{2}{3}$ または $\frac{3}{4}$ の位置を触る… 1オクターヴと完全5度上
- ・ 弦長の $\frac{1}{4}$ または $\frac{3}{8}$ の位置を触る… 2オクターヴ上
- ・ 弦長の $\frac{1}{5}$, $\frac{2}{5}$, $\frac{3}{5}$, $\frac{4}{5}$ の位置を触る… 2オクターヴと長3度上
- ・ 弦長の $\frac{1}{6}$ または $\frac{5}{6}$ の位置を触る… 2オクターヴと完全5度上

開放弦（自然ハーモニクス）では複数のポイントで演奏可能だが、それ以外の場合（人工ハーモニクス）は最も狭いポイントが指示されます。楽譜の表記は、実際に押さえるポイントが通常の符頭で書かれ、軽く触れるポイント（白抜き）を（白抜きの菱形）

で指示されます。また、人工ハーモニクスのハーモニクスポイントについては、左記のようになっています。

- ・ 完全5度の位置を触れる… 1オクターヴと完全5度上
- ・ 完全4度の位置を触れる… 2オクターヴ上
- ・ 長3度の位置を触れる… 2オクターヴと長3度上
- ・ 短3度の位置を触れる… 2オクターヴと完全5度上

これらのことを弦楽器の演奏から聞き取り、しっかりイメージとしてとらえ、アーティキュレーションを工夫し、表現の幅を広げることが求められるのです。



編集余録

・ 定期演奏会の打ち上げの席で、次の演奏会で演奏したい曲が話題になり、何人かの方が「マーチを2、3曲演奏したいな」とのことでした。皆さん、中学生の時に始めて吹奏楽に出会い、毎日、毎日、マーチの練習に明け暮れていたとのこと。そういう私も、皆さんと同様に、「ワシントン・ポスト」「キング・コトーン」「エル・カピタン」等々、スーザを十曲近く練習した記憶が蘇りました。

（伊藤）

・ 定演お疲れ様でした！また来年も皆様と素晴らしい演奏会ができたと思います。

この間まで暑かったと思ったら、もう寒い練習場ですね。膝掛けや、暖かいスリッパや、ルームシューズをおすすめ致します。雪が降ると練習場に通うのも大変になります。二〇一二年を元気に迎えたいですね。

（長土居）

・ 皆さん定演お疲れ様でした。今回初めての試みだったアンサンブルも多少の事故はあれど無事(?)終え、ホツとしています。クラの皆さんありがとうございました。

緊張しましたが、皆さんのおかげで評判も良く、私自身も楽しかったです。（私だけ？）この団結力で二十周年も皆さんに楽しんで頂ける定演にしましょう。

（石田）

・ 今回の定期演奏会は、私にとってシニア吹奏楽団復帰後初めての、思い出深い演奏会となりました。「吹奏楽を続けてきて本当に良かったな」と改めて感じ、シニア吹奏楽団の一員として舞台に立てたことをうれしく思っています。また、「シニア便り」の編集も今回初めてお手伝いさせて頂きました。慌しい子育ての中で、気分転換となる良い時間を持つことができました。まだまだ不慣れな点も多くご迷惑をおかけするかと思いますが、皆さんこれからもよろしくお願致します。

（池内）

